

もいらだち、

「なにをやるにもぐずで、上達じょうたつのおそいやつだ」

と、口にまで出して田善をののしつたのです。

江漢こうかん先生のもとをはなれた田善は、オランダ語を学んでいた友人たちの助けをかりました。そして江漢に負けないよう、けんめいに努力しました。その結果、田善は江戸にきて数年のうちに、銅版画の技術を学びとってしまったのです。

銅版画とは、銅の板を針でひつかいて図をかき、その部分だけ薬くすりでくさらせ、インクをぬって紙に印刷いんさつしたものです。田善は、銅版画の研究にふかく入りこんでは、

「それにしても銅版画は、なんと正確せいかくにものをあらわすことができるのだ。わかるとつれ、いつそうおもしろくなる。」と、つぶやきました。田善の銅版画を見る人たちは、

「すばらしい」と口をそろえていました。松平のとのさまも、